

井原市公共交通会議（平成 25 年度第 1 回） 会議概要

と き 平成 25 年 4 月 23 日（火）

10 : 00 ~ 11 : 30

ところ 市役所 5 階 会議室 501・502

1. 開 会

1) 会議の成立を報告

- ・ 出席者 委員 25 名中 実出席 21 名 代理出席 1 名

2) 三宅会長あいさつ

3) 委員の異動

- ・ 田中秀明委員（株式会社井笠バスカンパニー）、三宅央夫委員（北振バス運転手代表）、安藤茂治委員（井原警察署交通課）、四条雅之委員（岡山県県民生活交通課）、川田純士委員（井原市建設経済部都市建設課）
- ・ 監査委員：四条雅之委員（岡山県県民生活交通課）

4) 自己紹介（委員・事務局）

5) 前回の会議概要説明（事務局）

2. 報 告

1) 平成 24 年度井原市公共交通会議事業報告について

・ 事務局説明

- （三宅会長） 委員のみなさんからご質問等はないか。
特になければ、後でまとめて伺いたい。

2) 岡山大学との交通まちづくり共同研究事業について（平成 24 年度分研究報告）

・ 橋本委員説明

- （三宅会長） 委員のみなさんからご質問等はないか。

（委 員） 興味深い内容である。立会演説や選挙公報では候補者の多くが「公共交通の充実」を訴えていたが、先の市議会議員選挙の前に、市議に対してこの内容を説明していたのか。このような分析結果をしっかりと勉強した上で主張しているようであったが、いかがか。

（三宅会長） 最終報告の説明自体はしていない。各市議で勉強されていると思う。

本日は、平成 24 年度分の研究の最終報告をいただいた。「岡山大学との交通まちづくり共同研究事業」は、平成 25 年度までの 3 年間にわたり実施するものであり、今回の研究報告は、今後、井原市公共交通会議において取り組む様々な事業の中で活用していくことになる。

（委 員） 分析結果をみると、「終発時刻」や「通勤・通学時間帯の運行本数」、「1 日あたりの運行本数」等の満足度が低くなっている。以前に勤務していた他市において、学校の下校時刻や部活動の終了時刻とバスのダイヤが合っていないということがあった。ダイヤの最終調整にあたっては、こうした点を考慮してはどうか。

（三宅会長） ご指摘の内容は、本市の公共交通を考える上で非常に重要な視点である。平成 24 年 3 月に開催した「井原市公共交通シンポジウム」では、パネリストの高校生から、通学に便利なバスにしてほしいという切実な意見をいただいた。その後に実

施した利用状況調査や高校生へのアンケート調査等の結果を踏まえ、部活動を終えた後にバスで帰宅できるようにダイヤを見直し、バス事業者の協力を得て平成24年10月から運行している状況である。本年度にも実施する利用状況調査等において、経過を見ていきたい。

3. 協 議

1) 平成24年度井原市公共交通会議歳入歳出決算について

- ・ 事務局説明

- ・ 監査報告（佐藤須賀則委員）

（三宅会長） 委員のみなさんからご質問等はないか。

ご質問等がなければ、報告のとおり承認してよいか。

委員拍手（協議事項承認）

2) 平成25年度井原市公共交通会議事業計画（案）について

3) 平成25年度井原市公共交通会議予算（案）について

- ・ 事務局説明（2）及び3）

（三宅会長） 委員のみなさんからご質問等はないか。

（委 員） 「バス体験学習会」は非常に良い取組である。本年度も引き続き開催するとのことだが、平成24年度はどこ小学校と幼稚園で開催したか教えてほしい。

また、提案であるが、現在実施している乗降方法や交通安全に関する説明・体験に加えて、「自宅や学校の周りには、こんなバスが走っていますよ」ということを知らせてはどうか。幼稚園児には難しいかもしれないが、小学校の高学年であれば、バスへの理解や興味が更に深まると思う。参加した小学生が家に帰って家族に「学校や家の周りにはこんなバスが走っているんだよ」と話すことで、バス利用のきっかけができるのではないか。

（事務局） ご提案の内容は、今後実施するバス体験学習会に取り入れていくことができるものと考えている。参考にさせていただきたい。

平成24年度にどこ小学校・幼稚園で開催したかは手元に資料がないため即答できかねるが、市内の13小学校・幼稚園で開催している。

（三宅会長） 木之子幼稚園や西江原幼稚園等で開催した際には私も参加したが、実際に運転席に座って前方の視野を確認する等、子供の目線に立って考え、体験することが重要であると感じている。

（委 員） 大変素晴らしい意見である。小学校の4～5年生になれば地図が読めるようになるので、高学年を対象に実施してはどうか。現在は、どちらかというと交通安全に寄った内容が主であるが、自宅や学校の周りのバス停やスーパーの位置等を知ることで、公共交通のみならず自分の住んでいる地域への関心も深まる。できれば、「総合的な学習の時間」のメニューに取り入れ、これまでの低学年を対象とした取組と一体的に、6年間の間で複数回、公共交通に触れる時間を作ることができるとよい。

（三宅会長） この公共交通会議の事務局には市の教育委員会も加わっているので、お互いに連携し、更に充実した取組にしていきたい。

（委 員） 出かける際にバスを利用することがよくあるが、乗る度に利用者の少なさを痛感

している。何とかならないものだろうか。

- (三宅会長) 本年度は5月に利用状況調査の実施を予定している。2年前から市内の全バス路線を対象とした一斉調査を毎年定期的に行っており、あわせて、利用者へのアンケート調査等も行っている。今後も定期的に調査し、経過をみていきたい。
- (委員) 本年度は、井原バスセンターの改築に向けた新施設の設計等が行われると聞いているが、タクシーが横付けできる待機場所の整備や、タクシー事業者への直通電話を設置する等、公共交通機関が相互に連携した形での整備方策を考えてほしい。
- (三宅会長) 井笠鉄道の鉄道駅の跡地に立地する井原バスセンターは、井原町商店街等の旧市街地に近接し、井原駅との間を直線で結ぶ重要な交通結節点である。井原バスセンターの改築にあたっては、関係各所からの意見を踏まえ、ご指摘にある乗り継ぎ利便性の向上等の様々な観点から、整備の方向性を検討したい。
- (委員) 前に戻るが、報告事項の「岡山大学との交通まちづくり共同研究事業」に関してお尋ねしたい。資料によると、美星地区の井原あいあいバスの停留所の多くは、「井原市民病院の平均診療終了時刻の後に、バスを乗り継いで帰宅することが不可能」とあるが、これはどういうことか。
- (事務局) 実際には、11時台に発車する井原あいあいバス3路線（黒木・星田線、黒萩・八日市線及び鬼ヶ嶽線）の後の15時台と16時台に、一般混乗のできるスクールバスが運行されており、これらを乗り継いで帰宅することが可能である。スクールバス一般混乗を含む美星地区の井原あいあいバスは、いずれの路線も利用者数が非常に少なく、住民への周知と、利用しやすい運行時間帯の設定が課題であると考えている。
- (三宅会長) スクールバス一般混乗の時刻は、市民一般には知られていないかもしれないが、美星地区住民のうち普段からバスを利用している方には知られているように思う。ただ、スクールバス一般混乗を利用して帰宅できるとはいつても、15時台まで待たねばならず、他の地区に比べて所要時間が多くかかるというのは課題のひとつである。
- (三宅会長) その他、平成25年度の井原市公共交通会議事業計画（案）及び予算（案）について、委員のみなさんからご質問等はないか。
ご質問等がなければ、原案のとおり承認してよいか。

委員拍手（協議事項承認）

4. 閉会

仁科副会長あいさつ

以上